



巻頭エッセイ	1
シリーズ「福祉にみる“いのち”」⑨	2
コラム「人間を考える」⑪	3
2024年度講座案内	4

同朋大学 “いのちの教育” センター
〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1
TEL 052-411-1373
Eメール宛先 inochi@doho.ac.jp

● 同朋大学 “いのちの教育” センターだより

本センターは今年、設立30周年を迎えました。それにちなむセンター長の巻頭言とともに、今号もセンターの願いに呼応する玉稿2本をお寄せいただきました。いずれも普遍的かつ若い世代へのメッセージが込められた内容だと思います。そして2024年度 “いのちの講座” 案内を掲載しています（最終回は30周年記念講演）。ぜひご参加ください。

2024.7.1 NO.60

同朋大学 “いのちの教育” センター設立30周年にあたって 「死」があるからこそ輝く「生」 安藤 弥

本センターは、「浄土真宗という仏教」を根幹とする同朋大学において、建学の精神である

「同朋和敬」（共なるいのちを生きる）に基づく “いのちの教育” を考える場を開く機関です。1994（平成6）年に第7代学長の池田勇諦先生（現・本学名誉教授）のもと、田代俊孝先生（現・本学名誉教授、仁愛大学学長）をセンター主幹（現・センター長）としてスタートしました。

そのとき、田代先生はすでに「死そして生を考える研究会」（1988〈昭和63〉年発会）を開かれ、仏教の視点・立場からいのちの問題についての研究実践を精力的に行われており、その志願が本センター設立にもつながったものとうかがっています。ともすると「死」がタブー視されがちでもあった20世紀末時点でのその取り組み始めはまさに先駆的なものであったと言えるでしょう。

あらためて、人間の真実である「生老病死」の課題は約2500年前に釈尊が真正面から見据え

られたものであり、その課題は21世紀の現在にも普遍（不変）的に確かめられます。

たとえば、大ヒットの漫画・アニメ『鬼滅の刃』において登場人物の煉獄杏寿郎が語る「老いることも死ぬことも人間という儚い生き物の美しさだ。老いるからこそ死ぬからこそ堪らなく愛おしく尊いのだ」という言葉が心に響くのは、まさに「死があるからこそ輝く生」という人間の真実がこもるからでしょう。世代を超えて「問い」を共有する機縁を感じます。

いま、本センターの活動は、学内外から講師をお招きし、それぞれご専門とされるところから、本学における “いのちの教育” という願いに呼応するお話をいただく連続 “いのちの講座” の開催と、講座内容の抄録や書き下ろし寄稿などを掲載するBRIDGEの刊行（年2回）を基本とします。これからも皆様とともに学び続けたいと存じます。

（本学 文学部教授 センター長）

心の生命線

小沢 日美子

“いのち”、それは、いま、ここで、私たちそのものでもあります。人として呼吸して生きている間、その文言それ自体は、その時々文脈により多様な意味を含意するように多彩な姿を光のもとに映し出します。そして、その実なるいのちは社会福祉によって支えられ、その営みで生きる源泉は満たされるように思われます。

心理学の授業では、実社会の出来事のほか、心のありようや心の成長・発達の探求に際して、映画を題材とする展開がなされることがあります。1986年公開の「スタンド・バイ・ミー (Stand by Me)」の原作は、S.E.King (1982) のThe Bodyです。映画の舞台は1950年代末のオレゴン州の架空の町キャッスルロック、その小さな町に住む4人の少年たちは線路づたいに“死体探し”の旅に出ます。少年たちは親に知らない一泊二日の旅を通して、人の死に向かう限りあるいのちを知る道程で、大人になって自らのものとして人生を生きること

を問いかけられます。少年たちがそれぞれに抱える心苦しく追い詰められている環境への気づきや、必死に互いを支え合おうとする親友同士の気持ちへの気づきを語る学生たちの繊細な描写は、人の心を洗練していきます。人間の心の奥底には言葉にしがたい様々なありようが潜められています。たとえそうであったとしても自らの傍らにも人がいて、その人も自身と同じように懸命な生への思いを抱えていることに気づき、それを分かち合う時間に立ち会うとき、人は生きる源泉に続く心の生命線が息づいて自分もまた生きていることに気づく瞬間を体験 (Aha-Erlebnis: 心理学上の概念で一般的に“腑に落ちる”) しますが、それは生きていることへの感謝とともに訪れるように思われます。

最後になりましたが、この機会をお与えいただきましたことに深謝申し上げます。

(本学 社会福祉学部 教授)

コラム 「人間を考える」⑪

生まれる国は選べない 国籍を持てる幸せ

三浦 純子

私たちは、生まれてくる国を選ぶことができません。境遇も環境も選ぶことができません。国境を越えるか越えないかで、命が助かるか助からないかの瀬戸際にある人々がいることを知っているのでしょうか。難民と呼ばれる人たちです。難民条約において、難民とは「人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するという理由で、自国にしていると迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れ、国際的保護を必要とする人々」と定義されています。

私は、縁あってタイの難民キャンプにフィールド調査に度々訪れています。隣国からタイに逃れた難民が9万人ほど滞留し、避難先である難民キャンプは40年まえからあります。テレビやニュースで時々耳にする難民は、遠い世界の話だと感じるでしょう。でも、難民の一人一人に話を聞き、触れ合っていくと自分たちと同じような悩みを持っていることに気がつきます。若者は勉強や恋愛の悩みを持ち、親は日々の子育てに悩みます。それと同時に、過酷な状

況にいても、懸命に学ぶ姿やどんなに困っている状況にいても、「他に与える」心を忘れない姿に、同じ人間として尊敬の気持ちが湧いてきます。難民キャンプに暮らす学生の1番の夢は「大学で学ぶこと」です。こうして、大学という学びの場に身を置かせてもらえることは、世界から見れば奇跡的なことです。また、安定した自分の国にいられるということ、パスポートや国籍を持てることはとても幸せなことです。大学受験に合格したのにパスポートがないことで、進学を断念し、涙を吞んだ難民の友人がいます。自分が今こうしていられることは、あたりまえでないと思うと、研究を通じて1人でも多くの難民が「生まれてきてよかった」と思い、尊厳のある生活が送れることを願っています。また、授業を通じて大学生が難民の逞しさに勇気づけられ、自分が既に手にしているものの尊さに気づいて、力強く前進してもらえたら嬉しいです。

(本学 文学部 専任講師)

同朋大学“いのちの教育”センター講座一覧

連続いのちの講座 テーマ “いのち”の教育

会場 Do プラザ 閲覧
無料

2024/10/10(木) 16:20～17:50

宗教的な関わりの意義

講師 河村 諒 (愛知県立大学准教授 本学講師)

2024/11/21(木) 16:20～17:50

つながりの中の暮らし ―助けることと助けられること―

講師 加藤 昭宏 (本学社会福祉学部専任講師)

2024/12/19(木) 16:20～17:50

戦争・福祉・ボランティア ―大正期方面委員の活動から―

講師 飯田 直樹 (本学文学部教授)

2025/1/16(木) 16:20～17:50

いのちの教育について

講師 北島 信子 (本学社会福祉学部教授)

2025/2/10(月) 14:00～15:30

仏教といのちの教育

センター設立30周年記念講演

講師 田代 俊孝 (仁愛大学学長 本学名誉教授)

開催についての最新情報は「大学HP公開講座欄 (<https://www.doho.ac.jp/>)」でご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

所 員

- センター長：安藤 弥 (文学部 教授)
所 員：北島 信子 (社会福祉学部 教授)
所 員：箕浦 尚美 (文学部 准教授)
所 員：岩瀬真寿美 (社会福祉学部 准教授)
所 員：市野 智行 (文学部 准教授)

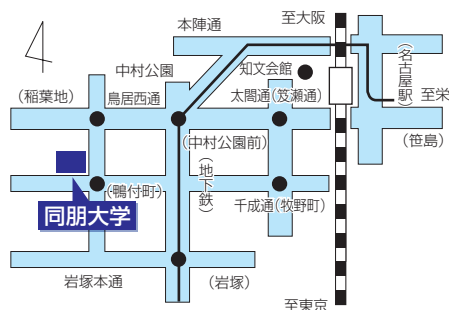
お問い合わせ先

同朋大学 “いのちの教育” センター

〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町7-1

☎ 052-411-1373

同朋大学 周辺地図



交通 バス／栄又は笹島より②系統稲西車庫行、鴨付町下車
地下鉄／中村公園より⑨系統稲西車庫行、鴨付町下車